

認定案 第1号	2016(平成28)年度 第1回理事会
報告 第1号	2016(平成28)年度 第1回評議員会

第3期 事業報告

自2015(平成27)年4月1日

至2016(平成28)年3月31日

公益財団法人

市川房枝記念会女性と政治センター

＝目次＝

1. 法人運営に関する事項	1
2. 公益・収益事業の概要	2
I. 政治教育・人材養成事業（公益一）	3
II. 情報収集・保存・提供・発信事業（公益二）	5
III. 出版及び調査・研究事業（公益三）	6
IV. 国内外組織連携及び支援事業（公益四）	7
V. その他本財団の目的を達成するために必要な事業	7
VI. 建物の賃貸事業（収益）	8

1. 法人運営に関する事項

- 役員 2016年3月31日現在の役員 理事13名、監事1名
 理事長 山口みつ子 常務理事 久保公子（事務局長兼）・日高みさお
 理事 阿南 久・五十嵐暁郎・市川ミサオ・鹿嶋 敬・金子良江・国広陽子・進藤久美子・
 角田由紀子・藤原房子・若菜允子
 監事 住田啓子
- 評議員 2016年3月31日現在の評議員 11名
 上野スズ子・枝松 栄・大山七穂・隈部紀生・栗林和子・鈴木那智子・松本惟子・
 三浦まり・村越まり子・毛利亮子・山口美代子

理事会

開催日／場所	審議・報告事項	審議結果
2015.4.13 ／婦選会館	報告事項 1)2015（平成27）年度事業計画・収支予算の概要の件 審議事項 1)2015・2016（平成27・28）年度理事長・常務理事辞任に伴う改選の件 選挙により理事長に山口みつ子、また互選により常務理事に久保公子、日高みさお、若菜允子を選定	了承 承認
2015.6.8 ／婦選会館	認定事項 1) 2014（平成26）年度事業報告認定の件 2) 2014（平成26）年度決算報告認定の件 審議事項 1) 2015（平成27）年度第1回評議員会の開催について	認定 認定 承認
2015.8.24 電磁的記録により 決議の省略	決議事項 1) 記念事業名称と企画概要についての同意を求める件	同意
2015.10.5 ／婦選会館	報告事項 1) 女性参政70周年記念事業の進捗状況の件 2) 執行役員の職務執行状況報告	了承 了承
2016.3.15 ／婦選会館	審議事項 1) 2016（平成28）年度事業計画案決議の件 2) 2016（平成28）年度収支予算案決議の件	承認 承認

評議員会

開催日／場所	審議・報告事項	審議結果
2015.6.25 ／婦選会館	報告事項 1) 2014（平成26）年度事業報告承認の件 審議事項 1) 2014（平成26）年度決算報告承認の件	了承 承認
2016.3.30 ／婦選会館	審議事項 1) 2015（平成27）年度事業計画案承認の件 2) 2015（平成27）年度収支予算案承認の件	承認 承認

理事懇談会

開催日／場所	懇談事項	審議結果
2015. 6. 8 ／婦選会館	検討事項 1) 市川房枝女性の政治参画基金の件	了承
2015. 11. 27 ／婦選会館	検討事項 1) 2016（平成 28）年度事業計画案の件	了承
2016. 2. 20 ／婦選会館	検討事項 1) 2016（平成 28）年度予算編成の件（事業計画案・収支予算案） 2) その他 若菜常務理事より、心身故障のため職務執行が困難として 常務理事辞任の申出があった	了承 了承

評議員懇談会

開催日／場所	懇談事項	審議結果
2015. 6. 25 ／婦選会館	検討事項 1) 女性参政 70 周年記念事業他の件	了承

女性参政 70 周年記念事業委員会

開催日	
2015. 5. 14	第 1 回記念事業委員会
2015. 6. 17	第 1 回企画委員会
2015. 7. 2	第 2 回企画委員会
2015. 7. 13	第 3 回企画委員会
2015. 8. 19	第 2 回記念事業委員会
(2015. 9. 3)	記者発表
(2016. 3. 10)	記者発表
2016. 3. 15	記念事業実行委員会

2. 公益・収益事業の概要

公益事業は、創立者市川房枝の理念を基に、女性有権者の政治教育を主たる事業とし、住民参加型選挙による女性地方議員養成や現職議員のための政策研修などを行ってきた。2010 年度からは市民、特に女性のガバナンス意識を啓発するような新企画を加えるなど、創立者の理念と実践を今日につなげ、方針決定への参画におけるジェンダー平等が世界的に遅れている日本の状況を改善するために事業内容の深化を図っている。

2015 年度は継続事業のほか、女性参政 70 周年記念事業（2015-2016 年度）に取り組んだ。同企画委員会で検討を重ね、初年度はまず秋に東北婦選獲得運動発祥の地、秋田で「女性を地方議会へ in 東北 2015」を開催した。前年 2014 年度の全国キャラバンの経験を生かした企画で、東北 6 県の女性グループと新たなネットワークを結んだ。その他の記念事業の実施年度は 2016 年度となるが、シンポジウムの講師交渉や女性国会議員アンケート・政党アンケート調査の実施、若者企画のために全国の高校への交渉やアンケート調査他、準備を重ねた。

新企画の連続講座『戦後 70 年』を考える』は、様々な課題に直面している日本社会の 70 年の歩

みと現在、そして「民主主義」をあらためて考えるため、多分野の専門家による講演シリーズを毎月1回土曜午後に開催。10数年ぶりの参加者をはじめ、新たな聴講者層を開拓した。ただ、いずれの事業の参加者も熱心だが、年齢層は高く、50歳代以下世代へのアプローチが依然として課題である。

『女性展望』は、表紙のカラー化、隔月刊へとリニューアルして2年目で、深掘り記事の特集、読みやすい誌面の工夫などに努めているが、読者の高齢化や活字離れが進む中で新読者の拡大には至っていない。講座などの事業同様、抜本的な対策が急がれる。

収益事業は、財団の安定的な運営のためテナント事業を柱とし、3階の4室は2015年度末現在、前年度に引き続き満室状態である。時間貸室も、婦選会館の歴史的な意義に賛同した女性グループなど、新規の利用が少しずつ広がり、前年度より総利用件数は87件増えたが、その大半は2006年度に一時閉館後、他会場を利用していた元英語教室が会館に戻ってきたことによる。

I. 政治教育・人材養成事業（公益一）

(1) 政治参画フォーラム 2015

- ①「政治主導の『教育改革』を検証し、真の教育のあり方を考える」（2015. 5. 22-23 参加者 37人）

講演「学校教育はいま一試される自治体の良識と力」藤田英典・共栄大学教授／情報提供「マイナンバー制度がやってくる—市民と自治体にどうかかわるのか？」三木由希子・NPO法人情報公開クリアリングハウス理事長／講演「暮らしと自治の基盤としての図書館」山口源治郎・東京学芸大学教授／事例発表「子ども支援取り組みの現場から」畠山由美・NPO法人だいいじょうぶ代表／調査報告「第18回統一地方選と女性」久保公子・財団事務局長

- ②「社会保障制度のこれから 国の役割、自治体の役割」（2015. 10. 30-31 参加者 52人）

講演「地方創生の課題」坂本 誠・NPO法人ローカル・グランドデザイン理事／講演「マイナンバー制度—市民と自治体にどうかかわるのか？」出口かおり・弁護士／講演「生活保障システムの転換と地域包括ケア」井上信宏・信州大学教授／講演「介護保険制度の現状とこれから」小竹雅子・市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰／「現場からの報告とディスカッション」渡辺 恵・社会福祉士・介護支援専門員

- ③「2016 日本経済と地方財政—自治・分権時代の自治体議会・議員の役割」（2016. 1. 29-30 参加者 42人）

講演「特定秘密保護法—市民と自治体にどうかかわるか」三木由希子・NPO法人情報公開クリアリングハウス理事長／講演「安倍政権下の日本経済と地方財政」町田俊彦・専修大学名誉教授／講演「男女共同参画社会の形成と自治体の取り組み—第4次男女共同参画基本計画の策定に携わって—」鹿嶋 敬・一般財団法人女性労働協会会長・内閣府男女共同参画会議議員／講演「2016年度自治体財政（速報・視点・課題）」菅原敏夫・公益財団法人地方自治総合研究所非常任研究員

- (2) 脱原発1日セミナー「コミュニティパワーの時代へ」（2015. 7. 12 参加者 29人）

講演「脱原発、そして自然エネルギー」河合弘之・弁護士・脱原発弁護団全国連絡会代表／講演「『ベースロード』に隠された悪意と時代錯誤」飯田哲也・環境エネルギー政策研究所所長／パネルディスカッション「市民の力で再生可能エネルギーをつくりだす」井上保子・非営利型株式会社 宝塚すみれ発電代表取締役、横山由美子・「おらって」にいがた市民エネルギー協議会副代表理事（以上パネリスト）、古屋将太・環境エネルギー政策研究所研究員（コーディネーター）

- (3) 女性を議会へ！全国キャラバン

IIを参照

(4) 女性史セミナー「戦争の時代を生きた女性たち：体験・記憶・歴史認識の継承」(企画協力=総合女性史学会)

- ①「総力戦と性の動員」早川紀代・総合女性史学会前代表 (2015. 10. 22 参加者 20 人)
- ②「15 年戦争下の女性団体—女性論理の陥穽」石月静恵・桜花学園大学教授 (2015. 11. 27 参加者 19 人)
- ③「母性の国家統合—『新』良妻賢母と日本女性の『覚悟』」山村淑子・近現代女性史研究者 (2015. 12. 10 参加者 16 人)
- ④「女の視点でヒロシマを考える」江刺昭子・女性史研究者 (2016. 1. 14 参加者 29 人)
- ⑤「21 世紀の平和とジェンダー—『女性が参加する平和』の時代へ」米田佐代子・らいてうの家館長 (2016. 2. 18 参加者 18 人)

(5) ジェンダー平等政策サロン 2015

- ①「男女共通の労働時間規制は可能か」竹信三恵子・和光大学教授 (2015. 5. 30 参加者 18 人)
- ②「子どもの貧困対策をめぐる現状と展望」湯澤直美・立教大学教授 (2015. 7. 25 参加者 28 人)
- ③「海外のジェンダー予算の取組み」越智方美・ヌエック専門職員 (2015. 9. 26 参加者 13 人)
- ④「国会・地方議会でジェンダー平等は実現するか」大山礼子・駒澤大学教授 (2015. 11. 28 参加者 18 人)

(6) 連続講座「戦後 70 年」を考える

- ①「日本のエネルギー問題と原発」飯田哲也・NPO 環境エネルギー政策研究所所長 (2015. 4. 11 参加者 41 人)
 - ②「なぜ日本は日米開戦に進んだか、そしていまへの教訓」孫崎 享・元外交官 (2015. 5. 9 参加者 51 人)
 - ③「大国中国とどう向き合うか—戦後 70 年を迎えて」毛里和子・早稲田大学名誉教授 (2015. 6. 13 参加者 37 人)
 - ④「戦後 70 年」歴史の変造をどう食い止めるか—朝日バッシングとイスラム・テロ事件を振り返る」桂 敬一・著述業 (2015. 7. 11 参加者 34 人)
 - ⑤「国家と個人とメディアの関係を考える—コミュニケーションの権利と憲法」白石 草・OurPlanet-TV 代表 (2015. 8. 8 参加者 37 人)
 - ⑥「原発事故は私たちに何をもたらし、何を奪うのか」武藤類子・福島原発告訴団団長 (2015. 9. 12 参加者 34 人)
 - ⑦「沖縄に向き合う—『県外移設』論をどう受け止めるか」高橋哲哉・東京大学大学院教授 (2015. 10. 10 参加者 44 人)
 - ⑧「植民地の慰安婦 戦後 70 年=植民地『解放』70 年目に問われるもの」金 富子・東京外国語大学大学院教授 (2015. 11. 14 参加者 35 人)
 - ⑨「近代日本と水俣病—その今日的問い掛け」実川悠太・水俣フォーラム事務局長 (2015. 12. 12 参加者 37 人)
 - ⑩「沖縄でいま起きていること」島 洋子・琉球新報社東京報道部長 (2016. 1. 16 参加者 44 人)
 - ⑪「日本の民主主義はどこに行く？戦後思想の水脈から」宇野重規・東京大学教授 (2016. 2. 13 参加者 36 人)
 - ⑫「女性と人権—政治参画の現状と夫婦別姓訴訟最高裁判決から考える」辻村みよ子・明治大学法科大学院教授 (2016. 3. 12 参加者 42 人)
- 《特別講義》「WHAT THE WORLD OWES TO THE COMFORT WOMEN 世界の中の慰安婦」Carol Gluck・米コロンビア大学教授 通訳・道下匡子 (2016. 2. 2 参加者 36 人)

II. 情報収集・保存・提供・発信事業（公益二）

(1) 史資料の整備と公開—ライブラリー・アーカイブズ

- ①市川房枝戦後史資料の整理（継続事業）
- ②図書・史資料の公開 閲覧サービス 41 件、レファレンスサービス約 80 件
（受水槽更新工事に伴い 7. 1～8. 31 閉室）
- ③出版社・TV 局などへの史資料提供 23 件
 - *秋田テレビ「凛として～『秋田の母』和崎ハルの歩んだ道」
 - *テレビマンユニオン「BS 朝日 黒柳徹子のコドモノクニ～夢を描いた芸術家たち～」
 - *潮出版社『眼で読む『九転十起』 広岡浅子の生涯』
 - *日本入試センター『ウインターサピックス 5 年生 社会』
 - *ベネッセコーポレーション「2015 年度大学入試模試」
 - *PHP 研究所『共に生きるということ』（緒方貞子著）
 - *ベネッセコーポレーション「平成 27 年度 進研ゼミ小学講座」
 - *日本著作権教育研究会「サイバーカレッジ（センター試験）」
 - *NHK「日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択」
 - *創美社「大同生命特別展示『大同生命の源流 加島屋と広岡浅子』」
 - *星海社『広岡浅子 明治日本を切り開いた女性実業家』
 - *ベネッセコーポレーション「チャレンジタッチ 小学 6 年生」
 - *三栄書房『時空旅人』（女傑・広岡浅子と「あさが来た」の時代）
 - *創美社「大同生命特設サイト『大同生命の源流 加島屋と広岡浅子』」
 - *新日本婦人の会「月刊女性&運動」
 - *ウィメンズハウスとちぎ「DVD 私の生(いのち)はわたしのもの 売春防止法制定 60 周年に」
 - *テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQ さま!! 現役東大生&京大生が選んだスゴいと思う日本の偉人 BEST40 から全問題出題」
 - *テレビ東京「戦後の 51 人」
 - *読売新聞大阪本社「連続テレビ小説 あさが来た 浅子の情熱継ぐ女性たち」
 - *共同通信社「甘粕正彦、一葉に傾倒」
 - *らいてう研究会「らいてう・房枝の希ったこと—婦人参政権行使 70 年にあたって—」
 - *NHK E テレ「歴史にドキリ～平塚らいてう・田中正造～」
 - *NHK「ch. 18」
- ④パネル貸出し 2 件
 - *越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」 「戦後 70 年と女性の参政権パネル展」
 - *厚生保護女性会潮来支部「日本の女性参政権の歩みと市川房枝 女性参政権 70 周年記念展示会」

(2) 市川房枝記念展示室の公開

- ①見学者 個人 145 人、グループ 9 件 174 人、計 319 人

(3) 市川房枝を語る DVD 制作準備（展示室放映用）

(4) 女性参政 70 周年記念事業（2015-2016 年度）

- ①「女性を地方議会へ in 東北 2015」（2015. 11. 7-8 参加者 79 人 於秋田県中央男女共同参画センターほか） 東北 6 県の女性グループによる「女性を地方議会へ in 東北 2015」実行委員会共催
- ②「18 歳からの選挙権—高校生と市川房枝のめざしたこと」（2016. 6. 18-19）開催準備
- ③シンポジウム「女性は政治を変えられるか」（2016. 4. 18 於憲政記念館）開催準備
- ④「女性を地方議会へ in 関西」（2016. 11. 5-6 於ドーンセンター（大阪））開催準備
- ⑤ 2015 女性国会議員データベース公開準備

- ⑥『女性参政 70 周年記念 女性関係参政資料集』発行準備
- ⑦ 指定寄付募集

(5) 地域交流発信・コミュニティバザー

2015. 11. 20-21 開催。寄付（維持員など個人 84 人、協賛企業 16 社）、委託品（3 社）、産直品（宮城、神奈川、山梨、長野、鹿児島）を近隣住民や会館利用者に廉価で提供し、コミュニケーションも深めた。延べ来場者約 500 人

(6) 出前でトーク「こんにちは市川房枝です」

(7) 市川語録発信・グッズの制作販売

(8) 財団市川房枝記念会の 50 年—覚書、事業と人（仮題）発行準備

(9) ホームページ管理・運営

Ⅲ. 出版及び調査・研究事業（公益三）

(1) 『女性展望』発行

1954 年創刊の女性と広義の政治課題を中心とする専門情報誌。2014 年度より増頁、掘り下げ記事、表紙のカラー化など誌面をリニューアルして隔月刊となり、通巻第 674-679 号発行

(2) 女性展望カフェ

- ①「いま語る—戦争の時代を生きて」木崎和子・繊維製造業、関 千枝子・ジャーナリスト、鳥海哲子・元編集者、山口美代子・元国立国会図書館職員（2015. 7. 30 参加者 34 人）
- ②「老妻ハラスメント?! この現実をご存知ですか」沖藤典子・ノンフィクション作家（2015. 9. 30 参加者 16 人）
- ③「ドイツの戦後 70 年、そして欧州の難民問題とメルケル首相の決断」永井潤子・在ベルリンジャーナリスト（2015. 10. 16 参加者 28 人）
- ④「夢を追いかけて」松尾葉子・指揮者（2016. 3. 7 参加者 32 人）

(3) 市川房枝研究活動（市川房枝研究会）

市川房枝研究会(2005年発足)は、2013～15年度は第3期のテーマ「戦後の市川房枝(1951-1981)」に取り組み、2015. 3 末に年表、解説などの原稿提出、同年末から入稿を開始した。2016. 7 『市川房枝の言説と行動 年表でたどる人権・平和・政治浄化 1951-1981』刊行予定。
 研究員＝伊藤康子（主任研究員）・枝松 栄・国武雅子・久保公子・進藤久美子・鈴木尚子・八木博子・山口美代子・横澤清子
 研究会＝2015. 11. 20-21 開催
 ヒアリング＝2015. 5. 16 西條節子・元藤沢市議、2015. 11. 20 山口みつ子・市川房枝記念会女性と政治センター理事長

(4) 女性参政 70 周年記念事業

Ⅱを参照

(5) 2015 全地方議会女性議員の現状調査

(6) 『女性参政資料集 2015 年版 全地方議会女性議員の現状』発行（2015. 11. 10）

(7) 既刊出版物頒布

(8) 『女性展望』創刊 60 周年記念事業 総索引のデータベース公開準備

IV. 国内外組織連携及び支援事業（公益四）

(1) 国内外女性団体活動に対する協力

- ① 目的を共有する女性団体に事務所を貸与して活動を側面援助
日本婦人有権者同盟、特定非営利活動法人日本 BPW 連合会に対して婦選会館 3 階の事務室を低賃料で賃貸し、また国連 NGO 国内婦人委員会、国際婦人年連絡会、特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会には連絡事務所として事務所機能を支援している。
- ② 「2015NGO 日本女性大会」（2015. 11. 22）開催準備及び整理のため、6. 22～12. 15 の 6 カ月間、国際婦人年連絡会に研修室 B を無料提供
- ③ 国立女性教育会館「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」アーカイブの実践プログラムに講師派遣（12. 9 評議員山口美代子「女性参政関係史資料を整理して」）

(2) 国の第 4 次男女共同参画基本計画と 2016 年度予算案を聞く会（2016. 2. 26 参加者 38 人 共催＝日本婦人有権者同盟）

内閣府・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・外務省（初）の 6 府省担当官出席

(3) 各界女性新年交歓会（2016. 1. 7 参加者 114 人）

新年恒例の事業。女性団体、行政、国会議員、ジャーナリストらが集い、料理を囲んだ交流の場を提供している。

(4) 第 33 回市川房枝女性の政治参画基金助成

助成希望者公募期間＝2015. 7～8。助成対象＝歴史ジャーナリスト・岩尾光代氏。助成金＝10 万円（2015. 11. 14、財団創立 53 周年記念維持員のつどいで贈呈）。助成テーマ＝DVD「最初の女性代議士たち」の制作費用の一部。市川房枝女性の政治参画基金事業選考委員＝山口みつ子・久保公子・日高みさお・若菜允子・藤原房子（以上現理事）・金平輝子・本尾 良（以上元理事長）

V. その他本財団の目的を達成するために必要な事業

(1) 維持員

- ① 財団創立 53 周年記念維持員のつどい（2015. 11. 14 参加者 20 人）
財団の近況報告、第 33 回市川房枝女性の政治参画基金の贈呈、財政状況報告、女性参政 120 周年記念事業「女性を地方議会へ in 東北」報告、軽食
- ② ホームカミング（2016. 1. 15 参加者 54 人）
維持員や元講座生らが元講師 5 人を囲んで昼食・交流
- ③ 「婦選会館ニュース 2015 年 5 月号・維持員のみなさまへ」発行（2015. 5）
「婦選会館ニュース 2015 年 10 月号・維持員のみなさまへ」発行（2015. 10）

(2) 会館の補修工事など

- ① 1 階事務所カウンターガラス戸交換工事（2015. 4. 16）
- ② 地下受水槽更新工事（2015. 7. 1～8. 25）
- ③ 2 階研修室 B と市川房枝記念展示室の間の壁塞ぎ工事（2015. 7. 3）
- ④ 1 階玄関入口シール作業（2015. 7. 3）
- ⑤ 3 階 301 号室エアコン室外機修理（2015. 7. 7）
- ⑥ 1～3 階温水器調整作業（2015. 7. 8）

- ⑦ 屋上ハーフトレン化粧カバー取付作業 (2015. 7. 23～24)
- ⑧ 植栽の剪定、施肥料実施 (2015. 7. 31)
- ⑨ 地下書庫の照明 LED 化 (2015. 8. 26)
- ⑩ 全館フローリング床清掃・ワックス掛け、1 階多目的ホールのカーペット床清掃 (2015. 8. 30)

VI. 建物の賃貸事業 (収益)

(1) テナント

前年度に引き続き、婦選会館 3 階フロアの 4 室を 4 件に賃貸している。

部屋番号	入居者名	契約面積	更新日	入居日
301	(株) アトリエ福	65.33 m ²	2015. 7. 30	2011. 8. 1
302	(株) 青山 IGC 学院	28.92 m ²	2015. 10. 29	2011. 11. 1
303	特定非営利活動法人日本 BPW 連合会	28.60 m ²	2015. 1. 30	2009. 2. 1
304	日本婦人有権者同盟	48.49 m ²	—	2008. 11. 15*
計		171.34 m ²		

*日本婦人有権者同盟は 1962 年開館以来賃貸しているが、2008 年の耐震補強・改修工事で一時退去のため、再開後の入居日を記載した。

(2) 時間貸室

国際婦人年連絡会 85 回、北澤クラス 78 回、国松クラス 66 回、野間ロクラス 66 回、谷岡クラス 65 回、心の杜・クリニック 38 回、山森クラス 33 回、講座日本史 23 回、国連 NGO 国内女性委員会 15 回、縫田自主ゼミ 11 回、笹の葉の会 8 回、特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会 7 回、パイロットインターナショナル・(株)ファミリーサポート各 6 回、トクラス (株) 4 回、特定非営利活動法人日本 BPW 連合会・女性と人権全国ネットワーク各 3 回、一票で変える女たちの会・(株)アトリエ福・ギークサイト・市民政治研究会・東京家政大学・日本婦人有権者同盟各 2 回、オーラルヒストリー総合研究会・女性九条の会・国際人権規約完全実施促進連絡会議・大学女性協会・地域女性史研究会・東京新聞・ベルテ代々木Ⅱ管理組合・中村邦生の会・二土会・日本ランドスケープ各 1 回 (合計 539 回。1 日通しで利用の場合は、2 回〈午前・午後各 1 回〉とし、また同日、同一団体が複数の部屋を利用の場合、各部屋ごとに 1 回と数えた。)

事務局職員 (2016 年 3 月 31 日現在)

事務局長 久保公子 (嘱託・常務理事兼務)

主 任 清水容子 (常勤)

職 員 今川淳子 杉森陽子 張替信子 渋谷幸子 (以上非常勤)

